【山伏コースと小菅山周辺】（地図は「国土地理院電子地図編集版」参照）

令和４年 12 月１日　K.S

◆山伏（禅頂修行）コース（２）

［万仏山山頂（0.25←→0.30）イワウチワコース合流点（鉢窪の分岐）（0.10←→0.15）三界峰（1.30←→1.00）九巒乗越（0.10←→0.10）小菅山（0.30←→0.20）奥社（0.40←→0.30）小菅集落］
（万仏山山頂までは「万仏山登山コース」を参照）

このコースは、毎年、禅頂修行に訪れている山伏たちと地元の有志により開拓されたコースである。令和元年 10 月に、ほぼ切り開きが終わったが、コース全体を通しても根曲竹の切株が飛び出たり、倒木があるなど、まだまだ一般的とは言い難いので、辿る場合は、しっかりした靴と登山装備で臨んでもらいたい。

修行コースとしては、万仏山登山口から、お堂（万仏岩）、万仏山山頂までを含むが、コース案内は万仏山山頂からとする。

万仏山山頂から北に向かい、北峰を過ぎて急坂を鞍部に下る。さらに本沢の頭への尾根を登って行くと途中で右へ三界峰方面への巻道となる。鉢窪の分岐でイワウチワコースと合流し、右に尾根を辿ると、万仏山塊の最高峰である三界峰(約 1280m)に到達する。野沢温泉村の毛無山が望めるが、あまり展望が良いとは言えない。コースはここより西へ小菅山方面に向かい、まもなく水ヶ沢山三角点に着く。ここは明るく北に毛無山を望み、さらに南側に展望が効くので休憩に良い。この少し先で尾根から離れ急坂を下ってトラヴァースしていくと再び尾根上に出る。1220m 地点の灌木帯を過ぎ、1210m ピーク辺りから急坂が何か所かあるが特に問題はない。ブナの林を下って行くと、やがて九巒乗越に到着する。左に福島新田への登山道（九巒乗越コース）を分け、尾根上のブナの美林の中を進み、小菅山山頂を経て、最後は小菅神社奥社から参道を小菅集落に下る。

逆コースは、九巒尾根の長い登りや最後に万仏山の岩場の下りがあること、最後に小菅神社への参拝などを鑑みると、修行コースを歩くという意味での登山の面白さに欠けるように思われる、

◆九巒乗越コース（くらんのっこし）（10）

［林道登山口（0.40←→1.00）九巒乗越］

このコースは、令和元年（2019 年）に山伏コースの小菅山から三界峰間を整備するために、近道として開かれたコースであるが、不明瞭な部分も多く迷いやすいので特に上から下る時は注意が必要である。

福島集落から遠望すると、乗越まで杉の植林帯が続き、途中には立派な炭焼窯跡や目的不明（雪崩防止または植林のため？）の石垣跡が見られ、古くから山仕事などに使われていた場所のように思われる。

棚田から北ノ入林道を暫く行くと林道右に小さな水道施設（もう一つ下の方にもあるが、2 つ目のもの）がある。車はその先にスペースがあるが、夏は草が生い茂る。朴ノ木のある入口を入ると、直ぐに小さな岩を過ぎ、沢状から土手を左から巻くように上がる。さらに左

の窪の沢筋ではなく右の台地状を進み、その先で沢筋（水はない窪状部）に入る。植林帯を暫く登り広葉樹との境を登って行くと、立派な炭焼窯跡があるので、そこから右の小尾根にトラヴァースする。尾根を少し登り、平らなところから急登の九十九折りを暫く登って、最後は左にトラヴァースすると九巒乗越に出る。左に行くと小菅山山頂へと続く。

このコースは、小菅集落や神戸の大銀杏を起点に、小菅山から九巒乗越、福島の棚田へと下る周回コースとしても楽しめる。

炭焼窯

九巒乗越

◆北竜湖周回コース（7）

北竜湖周囲と小菅神社の奥社参道を回り、小菅山の北尾根を下るコースは、野沢温泉村のマウンテントレイル大会のコースとしても利用されているため、急坂や滑りやすいところはあるもののきれいに整備されている。

◆小菅神社南参道（8）

［神戸大イチョウ（0.30←→0.40）小菅神社］

昔の小菅神社の南参道が、現在は「国選定重要文化的景観」として、ハイキングコースとなっている。大イチョウから少し東に行ったところの「馬頭観音」から参道（山道）に入り、風切峠を経て小菅集落に入るが、途中、多くの石仏や石碑があり、隆盛を極めた当時を偲ばせる。